

書記官長

議長宛

大正十四年二月十六日

委員長 啓

委員

衆議院議員選舉法改正法律案帝國議會提出ノ件審査報告

富井 平山 有松 倉富 里田 平沢 江布 近江 山川

秘

衆議院議員選舉法改正法律案

帝國議會へ提出ノ件審査報告

今回御諮詢ノ衆議院議員選舉法改正法律案
帝國議會へ提出ノ件ニ關シ本官等審査委員タ
ルノ命ヲ受クルヤ其ノ憲法附属ノ法律ニ數多
ノ重大ナル改正ヲ加ヘムトスル關要ノ案件ナ
ルヲ念ヒテ客臘以來二十數回ノ委員會ヲ開キ
屢關係國務大臣及當局諸官ノ出席ヲ求メテ辯
明ヲ聽キ各負交所見ヲ述ヘテ査覈ヲ重ネ以テ
本案ノ審議ニ遺漏ナカラムコトヲ期シタリ

本条ハ形式上現行衆議院議員選舉法ノ全部ヲ
改正シテ之ヲ今期ノ帝國議會ニ提出セムトス
ルモノナルカ茲ニ專ラ其ノ實質ニ於テ現行規
程ヲ變更セムトスル重要ナル事項ヲ列舉スレ
ハ凡ソ左ノ如シ

第一 選舉權及被選舉權

(一) 帝國臣民タル男子ニシテ年齡二十五年以
上ノ者ハ選舉權ヲ有スルヲ以テ本則ト為
シ選舉資格ニ於ケル納税ノ要件ヲ全廢シ
一定ノ地域内ノ住所ノ繼續ヲ選舉資格ノ

要件トセシヲ改メ一定ノ地域内ノ住居ノ
繼續ヲ以テ選舉人名簿ニ登録セラルルノ
要件ト為ス(第五條及第十二條)

(二) 選舉權及被選舉權ノ資格者中ニ貧困ノ為
公私ノ救恤ヲ受クル者及一定ノ住居ヲ有
セサル者ヲ追加ス(第六條)

(三) 特ニ惡質ナル一定ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ
懲役ノ刑ニ處セラレタル者ハ其ノ執行ヲ
終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄
及其ノ後仍五年ヲ下ラサル限度ニ於テ其

ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間内選舉權及被選舉權ヲ有セサルモノトス(第六條)

(四)入營前ノ現役陸海軍軍人及歸休下士官兵ハ選舉權及被選舉權ヲ有シ志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者ハ之ヲ有セサルモノトス(第七條)

(五)兵籍ニ編入セラレタル者(勅令ヲ以テ定メ)以外ノ學生生徒ニ選舉權及被選舉權ヲ與フ

(第七條)

(六)神官、神職、僧侶其ノ他諸宗教師、小學校教員

及政府ニ對シ請負ヲ為ス者ニ被選舉權ヲ

附與ス(現第十條ノ削除)

(七)選舉事務ニ關係アル官吏、吏員カ被選舉權ヲ有セサルハ其ノ關係區域内ニ限り且其ノ在職中ニ限ルコトトス(第八條)

(八)宮内官、判事、檢事其ノ他特定ノ官吏カ被選舉權ヲ有セサルハ其ノ在職中ニ限ルコトトシ朝鮮其ノ他特殊ノ地域ノ司法官及陸海軍ノ法務官モ亦在職中被選舉權ヲ有セサルモノトス(第九條)

(九)國務大臣其ノ他特定ノ官ヲ除クノ外官吏
及待遇官吏ハ在職中議員ト相兼ヌルコト
ヲ得サルモノトス(第十條)

第二 選舉區及議員數

府縣ヲ基礎トシ市及島嶼ヲ獨立選舉區トス
ルノ主義ヲ採ラス大體人口十二萬人ニ付議
員一人ヲ配當スルコトヲ基準トシテ議員定
數三人乃至五人ノ選舉區ヲ設定ス(別表)而シ
テ議員總數ハ四百六十六人ニシテ現在ニ比
シ二人ヲ増加ス

第三 選舉ノ手續

(一)總選舉ノ期日ハ議會閉會ノ日ヨリ二十五
日以内ニ議員ノ任期終ル場合ニ於テハ閉
會ノ日ヨリ三十日以内解散ノ場合ニ於テ
ハ解散ノ日ヨリ三十日以内トシ其ノ他本
法ニ於テ該期日ヲ限定シ該期日ハ少クト
モ二十五日前ニ之ヲ公布スヘキモノトシ
(第十八條)又再選舉及補闕選舉ノ期日ハ二
十日以内トシ少クトモ十四日前ニ之ヲ告
示スヘキモノトス(第七十五條及第七十九條)

(二)盲人ノ為勅令ニ定ムル點字ヲ以テ投票ヲ為スコトヲ許シ(第二十八條)又勅令ヲ以テ指定スル特殊ノ業務ニ從事スル者ニシテ業務上ノ事由ニ因リ選舉ノ當日不在ナルモノノ為勅令ニ定ムル特別ノ方法ニ依リ投票ヲ為スコトヲ許スコトヲ得ルコトトス(第三十三條)

(三)投票ノ點檢ハ選舉會ニ於テヤス開票所ニ於テ之ヲ行フ之カ為原則トシテ郡市ノ區域ニ依リテ開票區ヲ設ケ(第三條)郡市長ヲ

五

以テ開票管理者ト為シ(第四十四條)投票管理者ハ投票函ヲ開票管理者ニ送致シ(第三十五條)開票管理者ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル後開票所ニ於テ之ヲ開キ(第四十八條)投票ノ效力ヲ決定シ(第五十一條)各投票所ノ投票ヲ混同シテ之ヲ點檢シ其ノ結果ヲ選舉長ニ報告ス(第四十九條)

(四)選舉長ハ總テノ開票管理者ヨリ投票點檢ノ結果ノ報告ヲ受ケタル後之ヲ調査ス(第六十二條)

(五)投票立會人、開票立會人又ハ選舉立會人ハ
議員候補者カ當該區域ニ於ケル選舉人中
ヨリ各一人ツツ之ヲ選任スルヲ本則ト為
シ其ノ數三人ニ充タサルトキニ限り投票
管理者、開票管理者又ハ選舉長之ヲ選任ス
(第二十四條、第四十七條及第六十一條)

第四 議員候補者、當選人及其ノ補充

(一)自ラ議員候補者タラムトスル者又ハ議員
候補者ヲ推薦セムトスル者ハ選舉前成規
ノ期日迄ニ選舉長ニ其ノ旨ヲ届出ツヘキ

モノトス此ノ届出ヲ為ス者ハ議員候補者
一人ニ付二千圓ヲ供託スルコトヲ要ス議
員候補者ハ選舉長ニ届出ツルニ非サレハ
議員候補者タルコトヲ辭スルコトヲ得ス
選舉長ハ議員候補者ノ氏名及其ノ異動ヲ
告示ス(第六十七條及第六十八條)

(二)議員候補者ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタ
ル投票ハ無効トス(第五十二條)

(三)議員候補者ノ數カ其ノ選舉ニ於ケル議員
ノ定數ヲ超エサルトキハ投票ヲ行ハスシ

テ該議員候補者ヲ當選人トス(第七十一條)
(四) 議員候補者ノ得票數カ一定ノ數ニ達セサルトキ又ハ議員候補者カ選舉ノ期日ニ接近シ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルコト以外ノ事由ニ因リ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ前記ノ供託金ハ政府ニ歸属ス(第六十八條)

(五) 當選ニ必要ナル法定得票數ハ其ノ選舉區内ノ議員定數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ四分ノ一以上トス(第六十

九條)

(六) 當選人ハ當選承諾届出前ニ被選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ當選ヲ失フモノトス(第七十條)

(七) 補闕選舉ハ同一選舉區ニ於ケル關員二人ニ達スルヲ待チテ之ヲ行フ(第七十九條)

(八) 當選人又ハ議員ニ關員ヲ生シタルトキ當選ニ必要ナル法定得票數アル次點者ヲ以テ之ヲ補充スル場合ヲ擴張ス(第六十九條及第七十九條)

(九)再選舉又ハ補闕選舉ヲ行フヘキ事由カ議員ノ任期ノ終ル前六月以内ニ生シタルトキハ之ヲ行ハス(第七十五條及第七十九條)

第五 選舉訴訟及當選訴訟

(一)選舉訴訟ハ選舉人ノ外議員候補者モ亦之ヲ提起スルコトヲ得(第八十一條)

(二)選舉訴訟及當選訴訟ハ第一審及終審トシテ大審院ノ管轄ニ屬ス(第八十一條及第八十三條)

第六 選舉運動

(一)議員候補者又ハ推薦届出者(數人アルトキハ其ノ代表者)ハ自ラ選舉事務長ト爲リ又ハ別ニ選舉事務長一人ヲ選任シテ警察官署ニ届出ツルコトヲ要ス(第八十八條)

(二)選舉事務長ニ非サレハ選舉事務所ヲ設置シ又ハ選舉委員選舉事務員ヲ選任スルコトヲ得ス其ノ設置又ハ選任ハ選舉事務長ヨリ之ヲ警察官署ニ届出ツルコトヲ要ス(第八十九條)

(三)選舉事務所ハ本則トシテ議員候補者一人

ニ付七箇所ヲ超ユルコトヲ得ス選舉ノ當日ハ投票所ヨリ三町以内ニ之ヲ置クコトヲ得ス又選舉運動ノ為休憩所等ヲ設クルコトヲ得ス(第九十條乃至第九十二條)

(四)選舉委員及選舉事務員ハ本則トシテ議員候補者一人ニ付通シテ五十人ヲ超ユルコトヲ得ス(第九十三條)

(五)議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サル者ハ演説又ハ推薦狀ニ依ルノ外選舉運動ヲ為スコトヲ得ス(第九十

六條

(六)選舉事務長、選舉委員、選舉事務員又ハ演説若ハ推薦狀ニ依リ選舉運動ヲ為ス者ハ實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得選舉事務員ハ尚報酬ヲ受クルコトヲ得(第九十七條)

(七)勅令ノ定ムル所ニ依リ議員候補者又ハ推薦屈出者ハ其ノ選舉區内ノ選舉人ニ對シ一回限り無料ニテ通常郵便物ヲ差出スコトヲ得又公立學校其ノ他ノ營造物ハ演説ノ為其ノ使用ヲ許可セラルハキモノトス

(第百四十條)

(八) 選舉權ヲ有セサル者ハ選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ト爲ルコトヲ得ス又選舉事務ニ關係アル官吏、吏員ハ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

(第九十九條)

(九) 戸別訪問及連續的ニ個々ノ選舉人ニ對スル面接又ハ電話ニ依ル選舉運動ヲ禁ス(第九十八條)

(十) 選舉運動ノ爲頒布又ハ揭示スル文書、圖畫

ニ關シテハ内務大臣ノ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得(第百條)

第七 選舉運動ノ費用

(一) 立候補準備ノ費用ヲ除クノ外選舉運動ノ費用ハ選舉事務長ニ非サレハ之ヲ支出スルコトヲ得ス但シ議員候補者、選舉委員又ハ選舉事務員カ選舉事務長ノ承諾ヲ得テ之ヲ支出スルヲ妨ケス又議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サル者ハ演説又ハ推薦狀ノ費用ノ外選舉運動

ノ費用ヲ支出スルコトヲ得ス(第百一條)

(二)選舉運動ノ費用ハ本則トシテ議員候補者一人ニ付選舉区内ノ議員定數ヲ以テ選舉人ノ總數ヲ除シタル數ヲ四十錢ニ乘シテ得タル金額ヲ超ユルコトヲ得ス此ノ費用ノ制限額ハ地方長官(東京府ニ在リ警察總監)之ヲ告示ス(第百二條)

(三)選舉運動ノ為財産上ノ義務ヲ負擔シ又ハ金錢以外ノ財産上ノ利益ヲ使用費消シタルトキハ其ノ見積金額ヲ以テ選舉運動ノ

費用ト看做ス(第百三條)

(四)議員候補者又ハ選舉事務長ニ非サル者力之ト意思ヲ通セスシテ支出シタル費用其ノ他一定ノ費用ハ之ヲ選舉運動ノ費用ニ算入セス(第百四條)

(五)選舉事務長ハ一定ノ帳簿ヲ備ヘテ之ニ選舉運動ノ費用ヲ記載シ選舉ノ終リタル後速ニ之ヲ精算シテ地方長官ニ届出テ且其ノ後一定ノ期間内一定ノ帳簿書類ヲ保存スルコトヲ要ス警察官吏ハ選舉後何時ニ

テモ選舉運動ノ費用ニ關スル帳簿書類ヲ
檢閲スルコトヲ得(第百五條乃至第百八條)
(六)選舉運動費用ノ支出額カ地方長官ノ告示
シタル制限額ヲ超エタルトキハ其ノ議員
候補者ノ當選ヲ無効トス但シ議員候補者
推薦届出者及選舉事務長ニ過失ナカリシ
ニキハ此ノ限ニ在ラス(第百十條)此ノ場合
ニ於ケル當選ノ無効ハ專ラ訴訟ノ結果ニ
依ルモノニシテ費用超過ノ理由ニ依リ當
選無効ヤリト認ムル選舉人又ハ議員候補

者ハ當選人ヲ被告トシ當選人ノ氏名ノ告
示アリタル日ヨリ三十日以内ニ大審院ニ
出訴スルコトヲ得(第百十四條)此ノ訴訟ニ
付テハ選舉訴訟及當選訴訟ノ例ニ從フ

第八 罰則

(一)選舉ニ關スル罪ノ刑ヲ重クス(第百十一條其他)
(二)議員候補者タルコトヲ止メシムル為又ハ
之ヲ止メタルコトノ報酬トシテ利益ヲ供
與スルコトニ關スル所為及投票ヲ偽造シ
又ハ其ノ數ヲ増減シタル所為ハ特ニ重キ

刑ヲ以テ之ヲ罰ス(第百十三條及第百二十七條)
(三)利害關係ヲ利用シテ他人ヲ誘導シタル所
為ヲ罰スルハ特殊ノ直接利害關係ヲ利用
シタル場合ニ限局ス(第百十二條又此ノ誘
導ヲ促シタル所為ヲ罰スルノ規定ヲ追加
ス(第百十二條及第百十三條)

(四)集會演說ヲ妨害シタル所為ヲ罰スル規定
ヲ追加ス(第百十五條)

(五)當選ヲ得又ハ得シムル為議員候補者ノ身
分職業又ハ經歷ニ關シ虛偽ノ事項ヲ公ニ

シタル所為ヲ罰ス(第百二十六條)

(六)選舉運動及其ノ費用ニ關スル本案ノ新規
定ニ違反シタル所為ヲ罰スルノ條項ヲ新
設ス(第百二十九條乃至第百三十五條)

(七)當選人カ其ノ選舉ニ關シ罪ヲ犯シ刑ニ
處セラレタルトキノ外選舉事務長カ選舉
ニ付他人ニ利益ヲ供與スルコトニ關スル
罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキモ亦其ノ
當選ヲ無効トス(第百三十六條)

(八)本法ノ罪ヲ犯シテ刑ニ處セラレタル者ハ一

定ノ期間内衆議院議員ノ選舉權及被選舉權ノミナラス選舉ニ付本法ノ罰則ヲ準用スル府縣會其ノ他ノ議會ノ議員ノ選舉權及被選舉權ヲモ停止セラル尤モ此ノ停止ハ情狀ニ依リ裁判所ニ於テ之ヲ適用セス又ハ其ノ期間ヲ短縮スル旨ヲ宣告スルコトヲ得(第百三十七條)本法ノ罰則ノ全部カ他ノ議會ノ議員ノ選舉ニ準用セラルルノ結果其ノ選舉ニ關シ罪ヲ犯シテ刑ニ處セラレタル者モ亦廣ク衆議院議員及府縣會其

ノ他ノ議會ノ議員ノ選舉權及被選舉權ヲ停止セラルルコトト爲ル

(九)投票ヲ偽造シ又ハ其ノ數ヲ増減スルノ罪ニ付テハ特ニ其ノ時効期間ヲ一年ニ伸長シ又本法ノ罪ノ時効期間ハ總テ犯人逃亡シタルトキハ之ヲ一年ニ伸長ス(第百三十八條)

此ノ改正法律ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行スルモノトス(附則第一項)

之ヲ要スルニ本案ノ主眼ハ選舉資格ニ於ケル

納税ノ要件ヲ撤廢シテ多年ノ懸案タル普通選舉制ヲ實施セムトスルニ在リ其ノ理由トシテ國務大臣ノ言明シタル所ヲ要約スレハ今ヤ憲法施行以來既ニ三十有六年ヲ經諸般ノ制度著シク整備シタルト共ニ國民一般ノ政治ニ關スル智能モ亦漸ク進步シタルニ鑑ミ茲ニ原則トシテ一定ノ年齡ニ達シタル男子ニ廣ク參政權ヲ附與スルコト實ニ憲政當然ノ歸結ナリト言フニ在リ而シテ本案ハ選舉區ニ關シテハ所謂中選舉區制ヲ採用シ其ノ他選舉ノ手續ヲ簡便

ニシ其ノ公正ヲ保持スル為必要ナル規定ヲ設クルコトヲ以テ要目ト為ス

按スルニ普通選舉制ハ當今ノ事態ニ照シ之ヲ是認スルコト蓋シ已ムヲ得サル所ナリトス選舉區制ニ付テハ各種ノ制ニ一長一短アリ本院先議ノ例ニ準シテ本案ノ儘之ヲ帝國議會ノ議ニ付スルニ同意スルノ外ナシ選舉運動及其ノ費用ノ制限ニ關スル新規定ハ事初試ニ屬スルカ故ニ其ノ效果ハ固ヨリ逆睹スヘカラサルモ必スシモ之ヲ非認スヘキニアラス其ノ他本

案ノ内容ニ関シテハ大體ノ趣旨ニ於テモ各章ノ條項ニ於テモ別ニ不可ナルモノヲ認メサルナリ

然レトモ本案ノ普通選舉制ニ依リ著シク選舉權ヲ擴張スルノ結果選舉人ノ總數ハ俄ニ現在ノ數ニ幾倍スルニ至ルヘシ斯ノ如キ急激ナル變革カ果シテ能ク其ノ運用ニ些ノ障礙ナキヤ否ヤハ最モ慎重ニ考慮スヘキ所ナリトス抑普通選舉制ハ殊ニ其ノ基礎ヲ國民ノ智德ニ置カサルヘカラサルカ故ニ之カ實施ニ伴ヒ政府

當局ハ益々教育事業ヲ整備シ特ニ當面ノ急務トシテ義務教育補習教育社會教育等ノ改善擴張ニ關スル適當ノ措置ヲ講セサルヘカラス又一部ノ徒輩カ時好ニ投スル所為ヲ敢テシテ智能未タ完カラサル多衆ヲ惑ハスカ如キコトアラムカ其ノ流弊ノ及フ所真ニ寒心ニ堪ヘサルモノアルカ故ニ矯激ナル言動ノ取締ニ關シ最モ有效適切ナル措置ヲ為シ且社會事業其ノ他思想ノ善導ニ資スヘキ施設ヲ為スコト亦寔ニ普通選舉制ノ實施ニ善處スルノ要諦ナリトス本官

等ハ政府當局ニ於テ深ク思フ此ニ致シ苟クモ
其ノ施為ヲ謬ラサラムコトヲ切實ニ希望セサ
ルヲ得ス茲ニ普通選舉制ノ採否ヲ決スヘキ岐
路ニ立チテ衷心國家ノ前途ヲ顧念スルノ餘特
ニ如上ノ希望ヲ提言シテ本案ニ賛意ヲ表スル
モノナリ

審査委員會ニ於テハ本案ハ之ヲ可決セラルヘ
キモノトシ且特ニ院議ヲ以テ右ノ希望ヲ
聖聞ニ達スルコト可ナリト認メ別紙ノ通り上
奏セラレ然ルヘキモノト多數ヲ以テ議決シタ

右審査ノ結果ヲ報告ス

大正十四年二月十六日

審査委員長

樞密顧問官子爵金子堅太郎

審査委員

樞密顧問官

富井 政章

樞密顧問官男爵平山 成信

樞密顧問官

有松 英義

樞密顧問官

倉富勇三郎

樞密顧問官男爵山川健次郎
樞密顧問官侯爵黒田 長成
樞密顧問官 平沼騏一郎
樞密顧問官 江木 千之

樞密院議長子爵瀨尾 新殿

上奏案

臣等衆議院議員選舉法改正法律案帝國議會へ
提出ノ件諮詢ノ命ヲ恪ニ本月 日ヲ以テ審
議ヲ盡シ之ヲ可決セリ而シテ本案ノ施行ニ伴
ヒ當局ニ於テ教育ノ整備思想ノ善導及矯激ナ
ル言動ノ防遏ニ資スヘキ諸般ノ施設ヲ為シ以
テ制度ノ運用ヲ圓滑確實ニシ傾流奔注ノ弊ナ
カラシムルニ努ムヘキコト臣等ノ切ニ希望ス
ル所ナルコトヲ併セテ議決シタリ乃チ謹テ上
奏シ更ニ

聖明ノ採擇ヲ仰ク

年月日

樞密院議長

大正十四年二月二十一日

委員長

委員

日本國及「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦間ノ關係ヲ
律スル基本的法則ニ關スル條約御批准ノ件審査報告

柴田 佐々木 中村 石黒
市 平 松 田